



私たちの歩み (7)

顧問・理事 酒井滋子

西脇さんは初体験のことばかりで心を砕かれました。運営資金集め、利用者さんへの対応など、ハートツリーハウスどっぴりの毎日を過ごされました。利用者さんと向き合ってじっくり話を聞かれたり、希望のお茶会、外出、親の会との付き合い etc. 居場所に必要な備品はあちこちから、ソファ、机、自転車など、揃い始めました。利用者さんが一人も来ない日もあり、そんな日は西脇さんは落ち込んでいたようです。寺沢さんは、やおき福祉会の仕事をしながらハートツリーのための資金集めでやってくださり、本当に頼りになる存在でした。10月18日に西脇さんが産休に入られ、またまた寺沢さんがやおき福祉会の職員さんの谷さんを派遣してくれるように動いてくれました。

谷さんは、施設長となり、居場所の運営に当たってくれました。田辺市の健康増進課のひきこもり窓口担当の目良保健師との連携も本格的に動き始めます。毎日の居場所利用者さん(約20名)への対応、行事計画と実施、エルシテイオとの交流、県、市、医療、福祉等、いろいろな委員会等への出席、親の会との話し合い、また、活動費の捻出のため、お菓子を作って、アオイ通りで開催されていた朝市で販売するなど、谷さんの活動は多岐にわたりました。こうして、2005年3月まで谷さんの施設長が続きました。



次号に続く

講演会のお知らせ

11月18日(土)田辺市ひきこもり支援啓発講演会・和歌山県地域若者支援公開セミナーがBig・Uで開催されます。講師は特定非営利活動法人さいたまユースサポートネット代表理事 青砥 恭(あおと やすし)氏です。第二部では串本高校演劇部による、演劇「幸と歩」が上演されます。ぜひ、ご参加くださいますようお願い致します。申し込みは不要です。

11/18 Big-U
 和歌山県地域若者支援公開セミナー
 11月18日(土) 14:00~16:00
 ひきこもり支援啓発講演会
若い人の生きを支える
 2016年春全国公開演劇コンクール大賞受賞作品
演劇「幸と歩」 串本高校演劇部オリジナル作品



「子ども・若者支援フォーラム」に参加して

事務局長 布袋太三

先日、私は「全国子ども・若者支援フォーラム」に初めて参加した。いろいろな困難を抱える子どもや若者とその家族への支援に奔走する人々が全国各地から大阪に集まった。

私は彼らが日々どんなことに心を砕きどんなことに喜びを噛みしめているのか、その肉声をしつかりと聴いてみたいと思った。それに、目から鱗のような実践例に出会ったり、希有な優れもの支援者と交流できるかもしれないとかかなりの期待感を募らせていた。

しかし、実に残念だが、今次フォーラムは私の期待をほぼ外してしまっ。身も蓋もない言い方が、中身も運用もいまいちとしか言い様がなかったのだ。

実際、至らぬ点があり過ぎた。あるはずの主催者からの基調的な現状の分析がない。内閣府報告も通り一遍でもとも全国事情を分析的に踏まえているとは言えない。分科会もパネリストたちの実践例がふんだんに語られるのかと思えばそれも無い。後半のグループワークに至ってはあまりの喧嘩と未整理でほとんど話し合いの体をなさなかった等々。

どうしてこうなってしまったか。大きな要因は主催スタッフが事前に「現状を分析的に捉え返し、その上で課題を整理し、解決に向けての指針を打ち出す」というフォーラムの骨格に関わる基礎的な論議と作業ができなかったのではないかとと思う。ただ、今次フォーラムの狙いは全国に支援地域協議会を張り巡らすことや支援のための地域資源の掘り起こしなど山積する難題へのシビアン論議を巻き起こすことではなかったか。前線で活動する多くの支援者たちはそうした現実性のある論議の応酬を望んでいたのではないかと思うが、こうした状況把握ができないとすれば主催スタッフとしてはピンチである。全国集会開催の苦労は並大抵ではないので、そのごとの敬意は表したいが、今回の反省は深めてもらいたい。そして次回こそは素晴らしいフォーラムとなるよう期待を続けたいと思う。

さて、最後に実はそんな中でもまったく収穫がなかったわけではないことを記して少々満腹を下げておきたい。

それは、豊橋市子ども若者総合相談支援センター「ココエール」のA4チランが出色であつたことである。これは本当にできていた。「切れ目のない若者支援」のイメージをチランにすればこんなになるのかもしれない。周産期から40歳ぐらいまでの困難を抱える子ども・若者とその家族への支援を一手に引き受けるネットワークを素描していて、平易で簡単だが、今後の若者支援の有り様を明瞭に指し示していた。

私たちもこの「ココエール」と早速に交流を進め、紀南の子ども若者支援の組織的枠組みやクオリティーについてさらに議論を深めていきたいと思う。